

日本企業振興協同組合から組合員の皆様へ、お役立ち情報や研修のご案内などをお知らせいたします。

TOPICS

💡 タクシーなど外国人運転手を拡大

国交省「特定技能」に追加検討

国土交通省は、人手不足が顕著なトラック、バス、タクシーのドライバーについて外国人労働者を活用する検討に入った。労働力が不足する産業で、即戦力となる外国人労働者の受け入れを認める在留資格「特定技能」の対象に、「自動車運送業」を今年度中にも追加する方向で出入国在留管理庁と協議している。人口減少で国内の労働力が不足する中、外国人材に活路を求める動きが加速しそうだ。

トラックなどのドライバーを巡っては、2024年4月から残業時間の上限が年間960時間に規制される。この影響で人手不足がさらに深刻化し、需要に合わせて人やモノを運べなくなる「2024年問題」が懸念されている。全日本トラック協会、日本バス協会、全国ハイヤー・タクシー連合会の3団体は、それぞれ今春に策定した23年度事業計画で、特定技能の対象にドライバーを追加するよう求める方針を明記。これを受けて国交省は、不足して

いる人手の規模や今後5年間の外国人受け入れ見込み数の把握、荷物の積み下ろしや客との意思疎通など業種に合わせた運転手としての技能試験の整備を進めている。

ドライバーとして働くには日本の運転免許が必要だが、客を乗せるバスとタクシーは「第2種免許」の取得が必須だ。試験は日本語のみで行われ、外国人にはハードルが高い。「言葉の壁」を抱える外国人が2種の試験を受ける場合にどう支援するのかや、安全運転の徹底策の検討が必要になる。外国人ドライバーを対象に研修の仕組みを設けるべきだとの声も出ており、制度設計が課題だ。特定技能をめぐるのは、政府は制度を創設した19年度からの5年間で、介護や建設など12の産業分野で34万5150人の外国人を受け入れ上限としてきた。今年6月末時点の実績は約17万人。

毎日新聞2023.9.12記事より一部抜粋

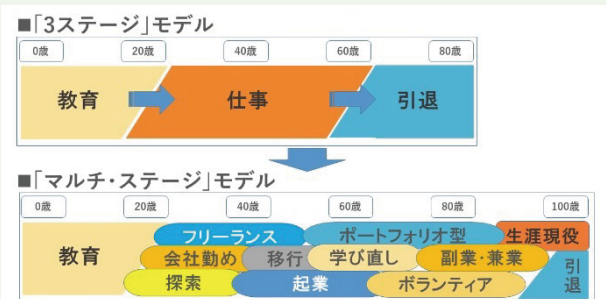
MEMO

📝 ビジネスひとロメモ

マルチ・ステージモデル

一般的に人生は「教育」「仕事」「引退」といった3つのステージで捉えられてきたが、人生100年時代が到来すると「引退」のステージが長くなる。

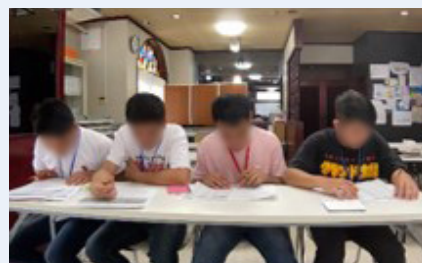
そこで提唱されたのが、「マルチ・ステージ」モデル。20歳前後で社会に出るからは会社勤め、フリーランス、学び直し、副業・兼業、起業、ボランティア...など、さまざまなステージを並行・移行しながら生涯現役であり続けるというもの。



INFO

📍 ご案内

研修のご案内



就業直前の技能実習生に対し、「雇用の仕組み」「就業者の権利と義務」「日本で働く際の心がまえ」などの確認研修を実施しています。研修時の講師とのコミュニケーションやテストによって、日本語レベルや日本での就業に関する理解度を確認しております。配属時に担当者より共有させていただいておりますので、ご参考になさってください。また事前に確認しておきたいことがございましたら、お気軽にお声かけください。可能な限り対応させていただきます。